

サハリン事務所現地レポート

2018年4月

(件名) 「サハリン剣道大会」の開催

報告者：主査 梶山 雅生

4月15日ユジノサハリンスク市のスポーツ施設で「サハリン剣道大会」が開催され、小職もゲスト選手として試合に参加したので報告する。

本大会にはユジノサハリンスク市とコルサコフ市から7～50歳の選手約50名が参加し技を競い合った。

試合は4つの部に分けて行われ、ジュニアの部（15-17歳）とシニアの部（18歳以上）の優勝者には5月末にウラジオストク市で行われる極東大会への出場権が与えられる。

サハリンには大きく2つの剣道団体（一つは韓国式剣道）があり、子供から大人まで約100名が所属し、ロシア人指導者の下日々練習に励んでいる。

シニアの部の優勝者であるヴァラウディ氏は「剣道は身体だけではなく、心を鍛える武道なので他のスポーツにはない魅力がある。これからもずっと続けていきたい。」と剣道の魅力を語った。

団体運営者によると、今後道内の青少年剣道団体との交流も検討しているとのことから、道事務所としてもサポートし両地域のスポーツ交流を後押ししていきたい。



開会式



大人の部の試合



少年剣士の試合

(件名) 「陶器ワークショップ」の参加

報告者：主査 阿部 大祐

4月14日、サハリン州政府、ロシア芸術家同盟主催による「陶器ワークショップ」が、市内の芸術学校において開催され参加したので報告する。

本ワークショップのキリュヒナ講師は、本年1月、札幌で開催された「北海道・黒龍江省国際交流美術展2017」にサハリン州から招へいされた芸術家の一人であり、当地において市民向けに芸術活動を行っている。今回はその縁で、同講師から依頼があり、ワークショップへ当地在住への日本人に声掛けを行ったところ14名の日本人が集まった。また、当日はロシア人向けの午前の部に小職が参加し通訳のための事前準備を行い、日本人向けの午後の部では講師の説明補助を行った。

参加者は、講師の指導の下、銘々作品を作りあげた。粘土は素朴な風味であるが、焼き上がりを想定して、様々な道具により文様付けを行った。子供たちも真剣な姿勢で粘土に向かい、作品の最後の仕上げを行っていた。本ワークショップで作成した陶器は、本年8月3日、ネベリスク市で行われる第9回「国際野焼きフェスティバル」において野焼きで焼かれて完成する。なお、この野焼きには、以前、宮崎県在住の陶芸家も参加し、大韓航空機撃墜事件で亡くされたご子息の魂の追悼を行っており、日本人にとっても関わりの深い行事となっている。

今回のように、ひとつの交流が新たな交流につながったことをうれしく思う。8月の野焼きには私も参加してワークショップで作成した陶器の完成を見てみたい。



ワークショップの様子



完成した作品



昨年の野焼きの様子
(キリュヒナ講師提供)